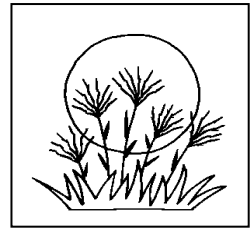


2010 年秋号

ぷらう 43号



発行：TEACCH プログラム研究会

<会長のつぶやき>

診断の状況をめぐって

TEACCH プログラム研究会会長 内山 登紀夫

自閉症スペクトラムと診断される子どもが増えているとよく言われている。

その理由としては診断概念が拡大したからであるとか、診断基準を拡大解釈する医師がいるからであるとか、自閉症は、あるいは自閉症スペクトラムやアスペルガー症候群は過剰診断されているとか、色々な説があるようだ。20 年前、10 年前と比較すれば、筆者が自閉症(スペクトラム)と診断する子どもの範囲は確かに拡大していると思うし、TEACCHセンターで自閉症(スペクトラム)と診断される人の範囲も拡大しているだろうと思う。少なくとも筆者が留学した 10 数年前は TEACCH は自閉症スペクトラムという用語を使っていなかった。カナリーの時代と比べて自閉症概念が広がっているのは確かなことだ。それにはそれなりの必然性と根拠がある。一番大きな理由は自閉症に特化した支援を必要としている人が非常に多く、それはカナリーが提唱した基準を厳密に当てはまる人々よりはるかに多いということが多くの研究でわかってきたからだ。

ただ、いまだに自閉症は非常に稀な障害だと思いたがる人がいるのも事実である。ある会から送られてきたアンケートに自閉症スペクトラムや発達障害と診断される人が増えている理由として「診断概念の拡大」と「診断基準の拡大解釈」が同じ項目に書かれていることに驚愕した。この二つは全く別の事柄である。

筆者らがある地区で最近行った調査で、診断や説明にかかった時間が10分以下という場合がかなりあった。自閉症スペクトラムは血液検査や脳波検査でわかるわけではないし、心理検査の結果だけみてもわかる障害ではない。診断を下すには、詳細は発達歴の聴取や行動観察が必要である。多くの TEACCH センターでは一日(ときには二日)かけて診断・評価する。自閉症スペクトラムの概念を提唱したウイング先生のクリニックでも一日かけて診断と説明をする。拡大解釈とか過剰診断とかいう前に、診断を下す状況そのものが日本では整備されていないのである。TEACCH の構造化の手法に関心がある人でも診断の方法については無関心な人も多い。概念が拡大されてきた現在、診断には以前よりもまして専門的な修練をついだ臨床家が時間をかけて丁寧に判断し、丁寧に家族にフィードバックする必要性が生じている。適切な診断は、支援の第一歩である。専門家をどう養成するか、時間をかけて診断できるだけの経済的裏付けの確保などが今後必要である。最初の診断で過少診断される、つまり、自閉症スペクトラムが見逃されると、何の支援も受けられなくなってしまう人が大勢生じることについてのリスクが軽視されているように思う。



第16回自閉症療育者のためのトレーニングセミナー

トレセミin香川 を終えて

トレセミ in 香川実行委員長 草原比呂志

プレスのかかったトレセミin香川は、气象台始まって以来の猛暑のなか、24名の受講生の太平洋高気圧を超える熱い熱意と、4名の協力児のがんばり、諏訪先生はじめトレーナーの先生方のご指導、鳥取支部の皆さんはじめとするボランティアの方々のご協力のおかげで無事？終了することができました。トレセミの運営に携わったことのない少数スタッフによる運営で、三段BOX事件やシャッター街置き去り事件などトレーニングのバックヤードで数多くの失敗を積み重ねましたことを誌上にてお詫びいたします。受講生の皆さん同様、我々スタッフもトレセミを契機に目の前の自閉症の方々への支援において新たなスタートをきることができました。皆様、本当にありがとうございました。

次回、第17回のトレセミは、平成24年度に鳥取にて開催されます。香川以上に熱いセミナーになることを期待しています。



<トレーニングセミナーに参加して>…感想文…

<北海道支部 小野 綾子>

3日間のセミナーでは、自閉症の方の学習スタイル・評価・コミュニケーション・自立課題・身辺自立等について、講義を受けた後、実際にお子さんと過ごさせて頂き、『評価・実践・再評価・再度実践』の流れで、実習を行いました。

講義の中で、『自閉症の方達の学習スタイルから工夫の方法を考えることが大切であること。支援を行う際には、自閉症の方達の学び方と私たちが伝えたいことの「ピントが合っているかどうか」確かめることが大切であること。支援を行う人は、自閉症の方から学び、その方に合ったオリジナルな物を見つけるための、観察する力と想像力が必要である。TEACCHは、自閉症の方達の力を引き出すための方法である。』等、たくさんの心に響くお話を聞くことが出来ました。

その後、実習を行う時間では、お子さんの学習スタイルから支援の内容を考えることの難しさと大切さを強く感じました。その中で、トレーナーの方にアドバイスを頂きながら、グループのメンバーと話し合い、コミュニケーションや自立課題、身辺自立に対して、『評価・実践・再評価・再度実践』を行う中で、講義で繰り返しお話しされていた『お子さんの学び方と私たちが伝えたいことのピントが合う』瞬間が何度かあり、その瞬間は、とても感動的でした。

今回のセミナーで体験できた『ピントが合う』経験を、現在利用されているお子さんや親御さんと共有することが出来たら、とても素敵な瞬間だなあと感じました。そのために、自分自身には足りない部分が多いことを実感し、お子さんや親御さんから学び・考え・工夫をすることができるような、スキルを身につけて行きたいと強く感じました。

3日間という短い時間でしたが、とても充実した時間を過ごさせて頂きました。本当にありがとうございました。

〈横浜市西部地域療育センター 佐藤慶子〉

かねてより参加を願っていたトレセミに念願かなってようやく参加できた嬉しさも束の間、“過酷(笑)で濃密な”3日間でした。全国各地から集まった参加メンバーは北は北海道、南は九州までさまざまな職種の方が集まっていて TEACCH プログラムへの関心の高さを改めて実感する思いでした。

このトレセミで非常に多くのことを学びましたが、今回特に心を動かされたことを 2 点お話ししたいと思います。

1 点目は自閉症の方々の思考「学習スタイル」にそった支援の組み立ての大切さを再認識したことです。そのために日々の臨床で“忙しい忙しい”と言い訳ばかりしているのではなく、とにかく観察することの大切さを体感したような気がします。

2 点目は繰り返し行われたグループでのミーティングです。一人のお子さんに6人のスタッフと、トレーナーの先生というとても贅沢な時間の中で、評価は独りよがりではなくスタッフ同士でコミュニケーションをすることで評価の視点、支援の手段のアイデアが広がることを実感しました。同時にバラバラになりがちな支援の方向性を統合する上でも非常に重要であることを再認識しました。

閉会式でトレーナーの先生がおっしゃった「TEACCH という同じ方向を向いた仲間」という言葉は“ここがスタートなんだ”という強い気持ちを持つことができました。

最後にこのトレセミに関わっていただいた自閉症の方々、そのご家族、そしてスタッフの皆様、本当にありがとうございました。

〈愛知支部 木村雅美〉

TEACCH研究会に入会してまだ2年目の私には、はじめてのトレーニングセミナーであり、TEACCHプログラムを実際に学ぶはじめての機会でもありました。今回のトレーニングセミナーに参加して、今までTEACCHプログラムについて書籍などでの学びしかなかった私は構造化のアイデアだけが先行していたことに気づきました。プログラムディレクター・講師の諏訪利明先生が講義の中で「評価とは私たちが自閉症をどう理解したか問われるプロセス」と説明され、必ず本人を理解するための評価からはじめることを学びました。評価→構造化そして再評価→再構造化・・・この繰り返しの重要性を強く感じました。

そしてチーム6名で、モデルの方が無理なく楽しく機能的な内容を効果的に学ぶためにはどのように構造化したら良いのか？立場を超えて活発に意見交換が出来たことも新鮮な体験であり、多くを学ばせていただきました。3日間と短い期間でしたが、チームで関わる大切さを再確認させてもらったとても良いチームだったと思います。

この3日間のトレーニングセミナーの学びを、これから現場で生かしていくことがトレーニングセミナーに関わってくださった皆様へのお返しだと考えています。

3日間、私たちの学びの為に協力してくださったモデルの方とご家族、3日間私たちをご指導くださったプログラムディレクター・講師の諏訪利明先生、開催準備から3日間のトレーニングセミナー中もそして終了後の片づけまで私たち参加者を助けてくださったTEACCHプログラム研究会香川支部の皆様、ボランティアの皆様、チームでの意見がまとまらない時には適切なアドバイスをくださった田代亜希子先生、今回のトレーニングセミナーに関わったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

今年の夏はとにかく暑い！この猛暑のなか8月6、7、8日の3日間は、私のところをいちばん暑くさせてくれました。トレセミを終えて早一ヶ月が経ちますが、私のところを暑くさせた3日間はあつという間でしたが、そのときの暑い気持ちは深くところに刻まれています。

私は自閉症という名の特性をもった21名の成人の方と週5日、日中を共に過ごしています。働き始めてから2年目になり、彼ら一人一人が「今日はいいい日だったなあ～」と思えるような一日であってほしいと思えば思うほど、私は彼らのために何ができているのだろうか、と悩む日々が続いていました。自分自身を見つめ直すために今回、このトレセミに参加することができ、本当に良い機会でした。

トレセミの間、協力者の方との関わりの中なかで、私たちと分かち合えたと思えた瞬間の喜びはとても大きく、同時に、21人の仲間と過ごしている時の生活が私の頭の中で重なっていました。「わからないときの苦しみは私だけでない、彼らもわからなくて苦しんでいる。でも、分かち合えたときの喜びや自信はとても大きく、私が彼らのことを考えることを諦めたら、彼らの生きる自信も奪ってしまうんだ」ということに気づかされました。

トレセミの最後の講義のなかで諏訪先生が「ぼくたちのちからをうまく引き出そうとしてくれてありがとう」と自閉症の方に成り代わっておっしゃってくださった言葉がとても印象的でした。私の方こそ、「私を成長させてくれてありがとう」と彼らに伝えたい気持ちでいっぱいになりました。

トレセミを終えた後、これからも彼らと共に笑ったり悩んだりしながら共に生きていこう、生きていきたい、と想いが自然と湧き出ていました。講師の先生方、スタッフの方々、3日間共に悩んだり、喜びを分かち合ってくくださった受講生の方々、私にたくさんの希望を与えてくださり、本当にありがとうございました。

平成22年度 第2回理事会報告

平成22年度第2回理事会は、

平成22年7月10日(土)13:30～17:00に、京都ひと・まち交流館 和室にて行われました。

参加理事：内山、村松、宇山、榎原、黒田、辻、中井、谷中、北山、丸田、磯山(藤井代)、大西、藤田(草原代)、竹内、内田、進藤、竹長(三ヶ田代)、岡本、井上、濱田(会計)

この理事会での決定事項および継続審議事項についてお知らせいたします。

議案1. 2010年コラボレーションセミナーの報告

全体のとまとめ、会計報告について、村松常任理事より報告され、その内容について理事会にて承認された。残っている冊子については各支部に平均して配分することとなった。

議案2. 2012年コラボレーションセミナーについて

次回、2012年のコラボレーションセミナーは、京都シルクホールにおいて開催することになった。それ以降の開催については、全国規模で開催地を検討していく。

回次のテーマは、「高機能自閉症スペクトラム：ライフ・ステージを通じた支援」に。

講師はまずメジボフ先生に依頼してみることにした。

開催日時は、2012年2月18日(土)・2月19日(日)に決定した。

議案3. 2011年愛知実践研の実施について

北山理事より実施企画について報告され、その内容について理事会にて承認された。

議案4. 2010年香川トレセミについて

藤田氏より実施内容・応募状況などについて報告していただいた。

議案5. ぶらう43号(2010年秋号)について

記事の分担と発行のスケジュールについて岡本理事より提案され、確認された。

議案6. 2013年実践研の開催候補について

石川支部での開催を検討していただくことになった。

議案7. 特別会計の用途について

トレーニングセミナー用の教材購入とトレセミ教材のトランク・ルームでの管理費、ホームページの管理費や各支部での研修への補助金などを必要に応じて出資することが提案され、理事会にて承認された。

その他の用途についても、今後検討を続けていくこととなった。

議案8. その他

- ・監事:愛知支部の中村氏に監事をお願いできることになった。
- ・平成23年度第1回理事会:平成23年2月26日(土)10:00-12:00に、愛知県産業労働センター「ウィンクあいち」にておこなわれることとなった

平成23年度総会のご案内

日時:平成23年2月27日(日) 11:30-12:00

場所:愛知県産業労働センター「ウィンクあいち」

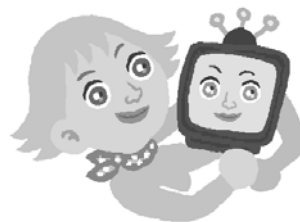
☆ 大事なみなさんの会費の執行状況や本部の活動について報告します。
ぜひご参加下さい。

HP管理からのお知らせ

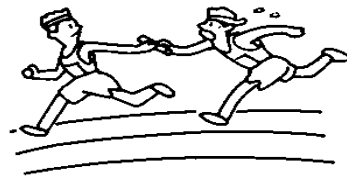
ぶらう秋号発行後のパスワードは

y o n a g a

よろしくお願ひします。



列島リレ〜



< 滋賀支部 >

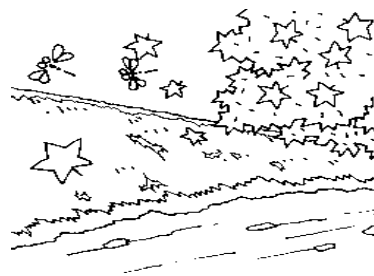
こんにちは、滋賀支部です。

みなさん、滋賀県ってどこにあるか、ご存知ですか？ 近畿圏の人も案外、滋賀県の位置を知らないことが多いのですが、滋賀県は京都府のお隣にあります。有名なのはもちろん琵琶湖。県庁所在地の大津市は、京都駅からJRで10分、大阪からでも40分弱。京都、大阪の通勤圏で、ほどよい田舎の住みやすさからか、JR沿線の地域は人口増が著しく、出生率が全国平均を大きく上回る市もあります。一方で、山間の地域では過疎と高齢化問題が深刻です。

さて、滋賀支部は、2006年、それまで「京滋支部」として一緒に活動をしてきた京都支部から独立し、会員数40名程度でスタートしました。当初の例会は実践報告をもとに活発な話しあいをしていましたが、参加者は世話人と常連に限られがちでした。TEACCHの考え方を広めるために、参加者の幅を広げるにはどうしたら良いだろうかと世話人会で話し合い、2008年～2009年は2年連続で「支援者のための基礎講座」を開きました。自閉症の人に関わり始めたばかりの人にも気軽に来てもらえるよう、「会員外ワンコイン(500円)」「申込み不要」「単発参加OK」の講座です。この講座を始めて、参加者は一挙に増加。(会員数はあまり増えていませんが…) 講義は世話人が回りもちで実施したので、準備が結構大変でしたが、世話人にとっても良い勉強になりました。

そして今年度、応用編として「自閉症の特性から問題の背景を探り、問題解決を図る思考のトレーニング」を始めました。例会の初めに氷山モデルの説明と「困った問題」が起こっている事例の簡単な紹介をおこない、「もう少し聞きたい情報」を参加者から質問。小グループに分かれ、氷山の下にある自閉症特性や環境因子を検討し、仮説を立てたうえで、解決のプランを立てます。7月からこの参加型の例会を開始。7月は夏休みに入った直後の時期で参加者は少なめでしたが、グループで話し合うことで、さまざまな方向からの検討ができ、充実した例会になりました。今年度はあと3回(9月～11月)、この形の例会を開催予定です。また、この参加型の例会以外に、4月～6月の例会では、成人期の生活・就労支援や保護者の実践や思いを聞かせていただく機会も持ちました。12月には恒例の「見学会(施設や企業の見学)」も計画中です。

会員数は相変わらず伸び悩んでいる滋賀支部ですが、世話人も参加者も元気になれる例会を目指して、地道に楽しくやって行きたいと考えています。



< 兵庫支部 >

兵庫県支部は、人数は、20人ちょっとの小さな支部です。兵庫県は、南の阪神間と北の但馬では、距離があるため、連絡事項は、メーリングリストで行っています。また、本部から送られて来る冊子も、出会う機会がないので、ほとんどが送付という形です。

定例会は、県中央の播磨地域で行っていますが、出席者は、そう多くありません。悩みは、参加者のニーズがどこにあるのか？ということでしょうか。一般啓発講演会は、毎年秋に明石市で行っています。これも、以前ほど、参加者が多いということはありません。今はネットが普及し、また、関連書籍なども多くでているために、足を運んでまでということなのだろうと思っています。これは、TEACCH研だけのことでなく、周辺のいろんな研修会、親の会を見ても、同様の傾向です。

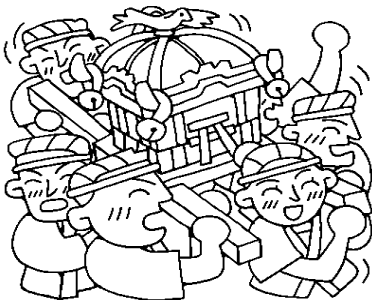
兵庫県支部の特徴は、ふたつあります。

一つは、少人数ですから、全体への学習会というよりは、個人的な相談が主になっています。ひとりずつ、今の状況を話し、具体的な案を持ち帰る。それは、参加する人にとっては、とても役立ちます。実際、関わっておられる自閉症・発達障害の人の暮らしは、確実に改善されていきます。学習会をしても、その人が話しを聞いて「ああよかった！」「参考になりました」と言うだけでは、当事者に還元されません。でも、聞いてきたことを、すぐに実践されると、なにかしら環境は変わり、暮らしに変化が現れます。大きなことはできなくても、そういうひとつひとつの事柄に、具体的に役立つ会であればいいなと考えています。

もう一つは、支援グッズを販売する (株)おめめどう が兵庫県支部の事務局になっていますから、巻カレ、コミュメモ、MITECA、イヤマフ、コボ等の支援グッズなどが、すぐ手に入るため、会員は積極的に取り入れています。スケジュールや視覚支援の意味、考え方を学んでからというのが正当な順番なのでしょうが、支援グッズが先にあると、目の前の子どもが困っているところに、具体的な支援から入っていくことができます。基礎の手だてをしないことには、実際の問題はどこにあるのかわかりません。まず最初に、基礎の手立て(スケジュールや視覚支援、構造化)に、取り組んでもらいたいと思っています。

昨年発売された「あのね♪DS」をはじめ、あのね♪シリーズを、支部代表が発案・設計したこともあり、子どもたちが身につけるVOCAの普及、コミュメモでの筆談コミュニケーションなど「みえるコム」(みえる形のコミュニケーション)などを、積極的にお勧めしています。TEACCHのメソッドをベースに、本人が必要としている支援を、具体的に提供していこうという考えで活動しています。

(文責 奥平綾子@TEACCH研兵庫支部事務局)



第10回 TEACCHプログラム研究会実践研究大会 in 愛知へのご案内

大会テーマ「地域に根付く支援」～参加者募集について～

TEACCHプログラム研究会では、第10回実践研究大会を下記のとおり愛知で開催することになりました。大会テーマは「地域に根付く支援」としました。TEACCHの理念とアイデアを活かした地域の様々な実践を振り返ると共に、地域の中でTEACCHを実践に活かし、根付いていくにはどうしたら良いのか考える機会になればと思います。会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたしております。

記

1 日程および内容

2011年2月26日(土)		2011年2月27日(日)	
13:00	受付	9:00	受付
13:30	開会式	9:30	実践発表
13:40	I 基調講演 「地域に根付く支援」 講師 藤岡宏先生 (つばさ発達クリニック)		分科会① 10歳未満の事例
	II 愛知からの実践報告		分科会② 18歳未満の事例
15:40	「小さな町で出来た事・瀬戸市の取り組み・ 発達支援室を中心に」 報告者 愛知県瀬戸市発達支援室スタッフ	11:30	分科会③ 18歳以上の事例
17:00	終了 *18:00～懇親会(希望者のみ)	12:00	TEACCHプログラム研究会年次総会 終了

2 会場 愛知県産業労働センター「ウインクあいち」

名古屋市中村区名駅4丁目4-38

◆(JR・地下鉄・名鉄・近鉄)名古屋駅より徒歩約2分

◆中部国際空港(セントレア)より約28分 (名鉄空港特急利用)

3 参加資格及び参加定員 TEACCHプログラム研究会会員 申し込み先着150名

*会員外の参加はできません。必ず各支部に入会手続きをしてからお申し込みください。

4 参加費 5000円 親睦会費(希望者のみ) 6000円

5 参加申し込み方法

参加申込書に必要事項を記載し下記へFAXしてください。もしくは参加申込書と同内容を記述の上、下記のアドレスにメールしてください。(内容不備の場合は手続きができませんのでご注意ください。)

*参加申し込み〆切 2010年 12月 20日(月)

※ただし、定員に達した場合はその時点で締め切ります。

*FAX送付先 0566-21-4679

*受付メールアドレス teacch-kenkyukai@mwt.co.jp ※問い合わせ先アドレスとは異なります。

・先着順にて受付の上、参加証、会場の地図、参加費入金手続きのご案内を送付いたします。電話での申し込みは受け付けられませんのでご了承ください。

・参加受付、入金管理業務等を名鉄観光サービス(株)に委託しています。申込み受付後、名鉄観光より入金案内、参加証が送付されます。

6 問い合わせ先 大会事務局 TEACCHプログラム研究会愛知支部

E-mail jissenken2011_aichi@yahoo.co.jp

*メールのみでお問い合わせください。

第10回TEACCHプログラム研究会実践研究大会 in 愛知

大会参加申込書

氏名(ふりがな)		所属支部	
勤務先		職種	
住所 〒 — <input type="checkbox"/> ご自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 ※どちらかにチェックを入れてください。		TEL	
		FAX	
		E-mail	
参加希望の 分科会はどこですか？	10歳未満の事例 ・ 18歳未満の事例 ・ 18歳以上の事例		
懇親会参加希望	参加します ・ 参加しません ※参加費6000円です。		
宿泊の予定は ありますか？	宿泊予定あり ・ 宿泊予定なし ※参加証とホテル案内が送付されます。		

第10回 TEACCHプログラム研究会実践研究大会 in 愛知
分科会発表者の募集について

TEACCHプログラム研究会実践研究大会にて、実践報告していただける方を募集しています。大会のテーマは「地域に根付く支援」です。TEACCHの理念とアイデアを活かした様々な実践を日本全国から募集します。

発表は2011年2月27日(日)の実践研究大会分科会で行ないます。分科会は、①10歳未満の事例、②18歳未満の事例、③18歳以上の事例と3グループあり、それぞれのグループで2事例ずつ報告していただく予定です。合計6組の募集です。できれば2事例のうち1つは知的な遅れのない事例を報告できればと思います。応募多数の場合、事例の内容が幅広いものになるよう調整させていただきますのでご了承ください。

発表を希望される方は下記の申込書に記載し下記へFAXしてください。もしくは申込書と同内容を記述の上、下記のアドレスにメールしてください。大会事務局より追って連絡いたします。

*申し込み〆切 2010年 11月 30日 (火)

問い合わせ先・申込先 : FAX 052-623-0597 ※個人宅なので、夜間にご遠慮ください。

: E-mail jissenken2011_aichi@yahoo.co.jp 大会事務局

: TEL 080-3673-4411 TEACCH研愛知支部携帯電話(19時~21時)

第10回TEACCHプログラム研究会実践研究大会 in 愛知

分科会発表申込書

氏名(ふりがな)		所属支部	
勤務先		職種	
住所 〒 —			
連絡先TEL・FAX		連絡先 E-mail	
報告したい実践の概要をお書きください ※ 書ききれない場合は別紙を添付してください	分科会の種別 <input type="checkbox"/> 10歳未満 <input type="checkbox"/> 18歳未満 <input type="checkbox"/> 18歳以上 ※どれかにチェックを入れてください。		